

2018年度業務のアウトプット

仕様書業務項目	業務内容		直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性があるアウトプット)	備考
			催事、発信	コンテンツ	システム	参加者(数)、対象者(数)など	
1 業務実施計画の作成及び公表	1-1	第5期事業目標・事業計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	第5期の業務実施計画(案)			
	1-2	平成30年度業務実施計画の作成	EPO中部HP、中部地方ESDセンターHP掲載	平成30年度の業務実施計画(案)			
2 運営会議の設置・開催	2-1	EPO中部運営会議の開催・運営【3回開催】	EPO中部運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体8名の委員より適切なご意見をいただく。	
	2-2	中部ESD運営会議の開催・運営【3回開催】	E中部ESD運営会議(3回) (中部地方環境事務所会議室を想定)	資料、議事録		NPO/NGO、行政、企業等様々な主体6名の委員より適切なご意見をいただく。	
3 基本業務	3-1	HP(EPO、ESD)の更新維持管理	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp) 中部地方ESDセンターHP (http://chubu.esdcenter.jp/)	更新情報ページ(月2回以上)		不特定閲覧者によるアクセス(EPO 244,000件程度、ESD600件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-2	メールマガジンの作成・発行	メール	メールマガジン		メールマガジン登録者への発信(800人程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-3	リーフレットの作成・配布		リーフレット(A4フルカラー、1,000部)		不特定多数への配布 留め置き、送付	
	3-4	照会・相談対応	面談、電話、メール	照会・相談の記録簿等		不特定多数への対応(年間EPO500件程度、内ESD130件程度)	目標アウトプットは過去の実績を参考に設定
	3-5	対話の体制の構築	地域の各種協議会や地域活動等	参加報告		地域の各種協議会や地域活動等へのEPO/ESDスタッフの参加(12回程度)	月1回程度
	3-6	施設の維持・管理	EPO中部事務所の年間を通じた維持、指定時間の開場				
4 協働取組の促進のための業務	4-1	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用	EPO中部HP(http://www.epo-chubu.jp)	協働・ESD・SDGs活動支援材料(主体・場・仕組み(制度))抽出整理結果(支援情報リスト)	支援情報リストを活用したシステム SNS(プロトタイプ)		
	4-2	協働コーディネーター連絡会の開催【3回開催】	協働コーディネーター連絡会(北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度)	連絡会実施記録			
	4-3	協働コーディネーターのあり方の検討		協働コーディネーターの在り方の指針案検討結果		(協働コーディネーターの在り方の指針案)	
	4-4	協働コーディネーターのPRツールの作成		協働コーディネーターのPRツール		不特定多数への配布のため留め置き、送付	
	4-5	活動評価システムの構築に向けた検証(協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施)【北陸・東海・長野から各1事例以上】	活動支援プログラム・ケーススタディ現場3地域(北陸、東海、長野)	ケーススタディ実施記録	SDGs活動評価システム(プロトタイプ)		
	4-6	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	フォーラム(北陸・東海・長野の各地域において各1回)	フォーラム開催記録		中間支援組織、活動主体、協働コーディネーター、各回20名程度	目標アウトプットは仕様書による
	4-7	協働取組促進のためのワークショップの実施【1回開催】	ワークショップ1回以上(1回4時間)	ワークショップ成果、実施記録		協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等 各回15名程度	目標アウトプットは仕様書による
5 中部地方ESD活動支援センター運営業務	5-1	PRツール(センターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動のPR)の作成・公開		ESDセンターの取組成果・中部のESD/SDGs活動PRツール(部)			
	5-2	ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)の作成		「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)記入票	「ESD/SDGsポイント」チェックリスト(仮称)		
	5-3	上記チェックリスト作成のための専門家(3名程度)によるワーキンググループ開催【3回開催】	ワーキンググループ開催(3回程度、EPO中部オフィスを想定)	ワーキンググループ実施記録			
	5-4	ESD推進のためのダイアログ(対話の場)の開催【北陸・東海・長野で各1回開催】	ダイアログ開催(北陸・東海・長野の各地域において各1回以上)	ダイアログ開催記録		関係者 各20名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-5	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回開催】	ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催(1回)	フォーラム開催記録		一般市民 50名程度の参加	目標アウトプットは仕様書による
	5-6	全国ESDセンター主催会議、イベント等への出席、資料作成対応等					
	5-7	全国ESDセンター等との連携(情報提供・交換、アンケート実施対応など)	全国センターとの電話や会合での情報交換	全国センター年次アンケート回答			
	5-8	地域ESD拠点登録支援等	面談、電話、メール	支援記録		ESD活動実践拠点登録新たに8拠点程度	目標アウトプットは地方センターに実績を参考に設定

2018年度業務のアウトプット

仕様書業務項目	業務内容	直接アウトプット(事業でコントロール可能なアウトプット)			目標アウトプット(状況により変動の可能性があるアウトプット)	備考
		催事、発信	コンテンツ	システム	参加者(数)、対象者(数)など	
6 「同時解決事業」における地域支援事務局業務	6-1 審査委員会の支援(ヒアリングの実施、審査委員会の実施補助)	面談(電話)	応募団体へのヒアリング結果		審査委員会への説明	
	6-2 採択団体及び審査委員との連携(採択団体との連絡・調整、採択事業の進行管理)	同時解決事業審査委員会	議事録			
	6-3 採択団体及び審査委員との連絡会の開催【1回開催】	現場における連絡会(1回)	進捗状況共有、助言記録		採択団体、審査委員の参加による情報交換	
	6-4 採択団体の伴走支援、事業計画、月次報告、中間報告書・ロードマップ等の作成支援	伴走支援(面談、電話、メール)	作成支援による事業計画、月次報告、中間報告、中期ロードマップ、事業報告書		採択団体のプロジェクト進行	
	6-5 環境省及び全国支援事務局への月次報告の提出・照会対応	メール、電話による照会対応				
	6-6 関連会議等(全国)への出席、資料作成対応【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	全国採択団体会合【キックオフ会合1回、連絡会議2回、外部評価委員会1回】	依頼資料			
	6-7 加速化事業採択案件に対する照会等対応	電話、メールによる助言・進捗確認				
7 環境教育・学習拠点における「ESD推進」のための実践拠点支援業務	7-1 支援対象拠点1拠点への伴走支援	伴走による助言、対応など	伴走支援記録		対象拠点のプロジェクト進行	
	7-2 支援対象拠点との連絡会の開催、インタビュー調査等を実施【連絡会3拠点各2回開催】	支援対象拠点連絡会(2回×3地域)	調査結果		支援対象拠点(3地域)の参加による情報交換等	
	7-3 プラットフォーム会議及び評価会議の開催(プラットフォーム会議は上記連絡会と兼ねる)【プラットフォーム会議2回、評価会議1回】	プラットフォーム会議(支援対象拠点連絡会と兼ねる)2回、評議会1回			支援対象拠点(3地域のうち1地域選定)の参加による情報交換等	
	7-4 全国事務局からの定期報告作成・提出、照会等対応	電話、メールによる対応	全国事務局様式定期報告			
	7-5 成果物作成に係る作業部会への出席、成果とりまとめに係る作業対応【作業部会3回開催】	成果物作成作業部会参加(3回程度(東京都内2回、近畿地方1回))				
	7-6 成果共有会の発表者選定と資料作成対応【成果共有会1回開催】	成果共有会参加(1回)	発表者資料		対象成果発表者の発表	
	7-7 アドバイザリー・ボード会議への中部アドバイザー選定・推薦、中部地域アドバイザーとの情報共有	アドバイザリー・ボード会議参加			中部地域アドバイザー選定	
8 環境基本計画に沿った環境教育支援業務	8-1 対象地域の関係主体におけるSDGsの理解等に関する現状把握【20事例】		現状把握報告書		20事例程度の現状把握	目標アウトプットは仕様書による
	8-2 対象自治体等向け勉強会(ワークショップ)の開催【2回開催】	自治体向け勉強会(WS)を2回以上(富山県内)	WS開催記録		SDGsの理解促進に関心の高い自治体・企業の職員(10名程度想定)	目標アウトプットは仕様書による
	8-3 勉強会参加者への事後調査		職務(活動)への効果・影響、主体的学び発信への展開等、事後調査結果			
9 関係主体との連携及び協働に関する業務	9-1 事務所担当官と業務の責任者との定期的な打合せ・報告、資料作成対応	定期打合せ(月1回以上)	毎月の業務報告 環境省担当官の要望に応じた資料			
	9-2 中部地方環境事務所開催会議への出席、資料作成対応等	全国EPO連絡会議、その他の進行管理会議・調整会議				
	9-3 GEOC主催の全国EPO連絡会議、そのほか関連会議への出席					
10 業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務						
11 外部資金を活用した事業	11-1 グリーン・ギフト・地球元気プロジェクト					
	11-2 地球環境基金					
	11-3 愛知県コーディネート業務					

2018 年度業務の評価指標

個票No.3-3

平成 30 年度計画 ■ ツール 会議 取組 催事 事務

■ EPO 中部 □ ESD 活動支援センター

分類	3 基本業務		
プロジェクト	リーフレットの作成・配布		
	表番号	業務内容	
	3-3	リーフレットの作成・配布	
仕様内容	第 5 期 EPO 中部の活動等を広く周知するためのリーフレット（A4 フルカラー、1,000 部）を作成し、情報の発信に努める。		
計画概要	7 月頃を目途に EPO 中部の第 5 期活動を掲載した携帯性の高いリーフレットを作成する。配布相手は EPO 中部および中部 ESD 活動支援センターの活動において、名刺交換とともに EPO スタッフ等が自ら組織を紹介する相手を想定する。そのため、環境の取組みに関係する行政担当者、企業 CSR 等の担当社、NPO のスタッフ、環境に興味のある個人、等が手渡されたときに、EPO 中部が「何者であるか」を直覚的にイメージできる冊子とする。		
関係者			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>【仕様・数量】 リーフレットは A4 版裏表カラーの三つ折りを想定し 1000 部を作成する。</p> <p>【構成の概要】 リーフレットの構成は以下を基本とし、おもて面に名前や基本的役割、うら面に住所や電話番号等、冊子を開かなくても一目で EPO 中部がわかるような内容を記載する。なか面については、第 5 期の活動方針等を始めとし、手渡された相手が興味を持てる内容を記載する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><おもて面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 正式名称、略称、元機関（環境省中地方環境事務所）の併記 ● EPO 中部の役割を示すキャッチコピー <p>例）未来の地球のために持続可能な社会を目指す。 協働取組み、環境教育、普及啓発の中部地方ハブ。 EPO 中部がお手伝いいたします！</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><なか面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● EPO 中部こんな組織です（紹介） <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境省が環境活動の協働のための拠点として法に基づき設置しています ・ こんなことをしています。 <ul style="list-style-type: none"> （情報及び資料の収集、提供：紹介や相談の対応、助言：情報交換や交流機会の提供、便宜供与：活動や意欲の増進、環境教育、協働取組の推進） ・ 全国ネットワークです（GEOC と各 EPO の紹介） ● EPO 中部は 2021 年までにこんなことを目指します（第 5 期計画 2018 年 4 月～2021 年 3 月） <ul style="list-style-type: none"> 目 標：中部地方の協働・ESD・SDGs 活動支援ツール及びシステム構築と、環境活動の質・量拡充方策の確立 運営方針：○ ESD/SDGs の意義とビジョン及び EPO 中部の役割等、協働促進のための情報の継続的発信 <ul style="list-style-type: none"> ○ EPO 中部独自の協働・ESD・SDGs の活動支援ツール・システムの構築 <ol style="list-style-type: none"> ① 「活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集」の作成・活用、 ② 「活動評価システム（活動効果や SDGs 要素を可視化するシステム）」の構築・検証、 ③ 「EPO 中部認定・協働コーディネーター」の制度化・発足 ④ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト・ツールの作成・活用 ○ 活動主体や中間支援組織等のニーズや課題を抽出する機会・場づくりと業務へのフィードバック ● 中部 ESD 活動支援センターを設置しています（ESD センターの紹介） <ul style="list-style-type: none"> ・ 中部 ESD 活動支援センターと（全国）ESD 活動支援センター、中部地域 ESD 拠点の紹介 ・ 中部 ESD 活動支援センターの役割 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><うら面></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 住所、電話番号、メールアドレス、Web アドレス ● 交通アクセス、所在地の地図 </div> <p>（ページ割り付け 参考：EPO 九州）</p>		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		リーフレット（A4 フルカラー、1,000 部）	参加者（数）、対象者（数） 不特定多数への配布 留め置き、送付

個票No.4-1

平成30年度計画 ツール 会議 ■取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用			
	表番号	業務内容		
	4-1	活動支援に資する主体・場・仕組みのデータ集の作成・活用		
仕様内容	中部管内7県における協働・ESD・SDGs 活動の支援につながる材料（主体・場・仕組み（制度））の抽出と整理を行い、それらに関する情報・素材等を収集し、リスト化する。 また、取組状況やイベント告知等を迅速に、かつ関係者以外にも広く認知・周知できるよう、SNS の活用を含めた情報発信の方法を検討し、その結果を踏まえて効果的な情報発信を実施する。			
計画概要	ネット上での発信を想定し、あらかじめ情報の効果的活用のために協働・ESD・SDGs 活動の収集情報の種類等、構成案等を作成する。それに基づきデータを収集・整理（リスト化）し閲覧できる情報カタログを作成する。また運営会議等に経過を報告するとともに収集情報の活用方法・発信方法等の検討を行う。			
関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・ EPO 中部 ・ 中間支援組織 ・ 活動主体 など 			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>上記の情報リストを WEB 等で公開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来的には検索等可能なマッチングのためのデータ集づくりを目指す。 ・ EPO 中部が照会することに適切な活動主体・場・仕組みのセグメント等を整理し、具体的な主体・場・仕組みについて収集する <p>【例】 中部7県の自治体主催・環境イベント（開催概要や出展条件等）のリスト化 各県の環境学習支援事業や関連施設等の整理 など</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	EPO 中部 HP (http://www.epo-chubu.jp)	協働・ESD・SDGs 活動支援材料（主体・場・仕組み（制度））抽出整理結果（支援情報リスト）	支援情報リストを活用したシステム SNS（プロトタイプ）	

個票No.4-2、4-3

平成30年度計画 ツール 会議 ■取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	協働コーディネーター連絡会の開催・協働コーディネーターのあり方の検討			
	表番号	業務内容		
	4-2	協働コーディネーター連絡会の開催		
	4-3	協働コーディネーターのあり方の検討		
仕様内容	協働コーディネーターの位置付けと地域における活動基盤形成等の検討に資するため、協働コーディネーター連絡会を開催する（北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度想定）。連絡会には、協働コーディネーターのほか、EPO 中部運営委員の参画（各2名程度）を得ることとし、幅広い知見から意見交換が行われるよう工夫すること。			
計画概要	<p>運営会議及びその委員の助言のもと、協働コーディネーターの在り方について議論するとともに、将来的に活動事業やコーディネーター認定手続き等を検討する基礎的な研究を行う。</p> <p>本年度は、環境省の窓口機関であるEPO 中部の「協働コーディネーター」としての位置づけ、あり方などについて、運営会議や協働コーディネーター（連絡会）と共に検討し、対外的な説明も可能な基本事項としての整理、明確化に取り組む。このため連絡会における議論で検討するとともに「中部の協働コーディネーターの在り方の指針（案）」を作成する。</p> <p>（平成30年度の検討結果をもとに、次年度以降はその具体化に必要な原案づくりや手続き等に取り組む予定。）</p>			
関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーター ・環境省中部環境パートナーシップオフィス運営会議 委員 （地理的条件を踏まえ以下の案から各地域2名に依頼） 【東海地域開催】 日本福祉大学 国際福祉開発学部 教授 千頭 聡（愛知） 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)名古屋本部 執行役員 加藤 義人（愛知） NPO 法人市民社会研究所 代表理事（四日市大学教授） 松井 真理子（三重） 【長野地域開催】 NPO 法人まちづくりスポット 専務理事 田辺 友也（岐阜） NPO 法人長野県 NPO センター 事務局長 山室 秀俊（長野） 【北陸地域開催】 石川地域づくり協会 専任コーディネーター 森山 奈美（石川） 金沢星稜大学 経済学部 教授 新 広昭（石川） のと共栄信用金庫（H27 協働コーディネーター）顧問 中里 茂（石川） 			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>協働コーディネーター連絡会の開催を通じた「協働コーディネーターのあり方」の検討のイメージ</p> <p>5月 第1回 EPO 中部運営会議／実施計画の報告 > 運営会議の意見を元に連絡会における論点を整理</p> <p>6月 第①回コーディネーター連絡会開催（長野）／「あり方」について実情と課題を議論 > 連絡会の議論を踏まえて「協働コーディネーターの在り方の指針（案）」骨子を作成</p> <p>9月 第2回 EPO 中部運営会議／骨子を報告 > 運営会議の意見を踏まえ連絡会議における骨子議論の論点を整理</p> <p>10月 第②回コーディネーター連絡会開催（北陸）／骨子内容の検討</p> <p>12月～1月 第③回コーディネーター連絡会開催（東海）／骨子内容の検討 > 協働コーディネーターの在り方の指針（案）検討結果のとりまとめ</p> <p>2月 第3回 EPO 中部運営会議／検討結果の報告</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	協働コーディネーター連絡会（北陸・東海・長野の各地域において各1回、3時間程度想定）	連絡会実施記録 協働コーディネーターの在り方の指針（案）検討結果		（協働コーディネーターの在り方の指針案）

個票No.4-4

平成30年度計画 ■ツール 会議 取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	協働コーディネーターのPRツールの作成		
	表番号	業務内容	
	4-4	協働コーディネーターのPRツールの作成	
仕様内容	第4期に選定された協働コーディネーターのPR及び活動事例等を紹介するためのコンテンツ・ツールを作成し、公開する。		
計画概要	<p>様々な活動団体が参考とできる協働コーディネーターを紹介するコンテンツ（専門性や実績等を明示）を作成・公開し、周知を図る。</p> <p>このため、各コーディネーターの協力を得て、個人別の専門性や実績等を収集整理するとともに、3地域（東海、長野、北陸）についての協働取組の事例を選定する。</p> <p>選定した3つの事例についてはPRツールの記事としてまとめるとともに、「4-5 活動評価システムの構築に向けた検証」のケーススタディとする。</p>		
関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・協働コーディネーター ・事例の対象となる取組み団体・個人 		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>【コンテンツ作成フローのイメージ】</p> <p>5月 第1回 EPO 中部運営会議 > 構成概要、コーディネーター情報提供依頼等を作成</p> <p>6月 第①回コーディネーター連絡会開催（長野）／コーディネーターに情報提供の依頼 > コーディネーターへのヒアリング取材・ケーススタディ取材→原稿作成</p> <p>9月 第2回 EPO 中部運営会議／経過及び原稿案を報告</p> <p>10月 第②回コーディネーター連絡会開催（北陸）／経過及び原稿案を報告</p> <p>12月～1月 修正・印刷→完成・公開</p> <p>【PRツール内容のイメージ】</p> <p>協働コーディネーターの存在、活用の実例などを活動主体等に紹介。 （コーディネーター連絡会の場で意見を伺いながら作成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・EPO 中部・協働コーディネーター21名の紹介 ・第4期でのコーディネーター参画事例の紹介 ・ケーススタディでの参画事例の紹介（活動評価システムづくりの予告的紹介） 		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		協働コーディネーターのPRツール	参加者（数）、対象者（数） PRツールの不特定多数への配布のため留め置き、送付

個票No.4-5

平成 30 年度計画 ツール 会議 ■取組 催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務		
プロジェクト	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）		
	表番号	業務内容	
	4-5	活動評価システムの構築に向けた検証（協働コーディネーターを活用したケーススタディの実施）	
仕様内容	協働・ESD・SDGs に関連する活動効果や活動における SDGs 要素を可視化する活動評価システムの構築に向けて、協働コーディネーターを活用したケーススタディ（協働コーディネーター参画による活動支援プログラム）を実施し、要素・材料の抽出と整理を行う。なお、ケーススタディの事例は、北陸・東海・長野の各地域から 1 事例以上選定すること。		
計画概要	協働・SDGs 活動評価システム構築のための事例・素材の集積を目的に、具体的なケーススタディとなる事例を協働コーディネーターからの紹介により北陸・東海・長野の各地域から各 1 事例を選定する。協働コーディネーター参画による活動支援プログラムとして対象事業を明示化する議論システムを活動評価のシステムとして構築し、ケーススタディを実施してシステムを検証する。検証の結果コーディネーターの専門家としての視点、活動者としての目線から得られる評価システム構築に向けた検討材料の抽出・整理を行う。		
関係者	協働コーディネーター、ケーススタディの対象となる取組み団体・個人		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>ケーススタディにおいては、中部大学中部高等学術研究所が考案した「流域活動 SD 分析法」を元にした汎用型の「環境活動 SD 評価分析法」を構築し検証する。既存資料からキーワードを用いて活動要素を抽出し「SD 分析チャート」上で関連を可視化するとともに、活動当事者との熟議により活動コンセプトを言語化して活動意義を明示する「持続可能性ものがたり」（SD ストーリー）を作成する。そして団体の活動の中で参加者に SD ストーリーを伝えてもらうことにより、効率的な ESD 展開を図るシステムを構築する。</p> <p>具体的には、評価分析で 4 つの過程を踏むことにより、客観的、合理的に環境活動の可視化を行う。その際、熟議の場として、客観性の向上と、活動当事者との合意形成を目的とした 2 回のワークショップを組み込む。また当事者が SDGs の評価結果として活動意義を参加者に説明するための「活動が持続可能性に貢献している物語（SD ストーリー）」を作成する。これらを合わせて ESD 教材とし、活動当事者が参加者に対して説明する際の資料とし、関係者のみならず、一般参加の市民や子供たちに持続可能性における活動意義を伝えることで ESD 展開を効率的に行う。</p>		
	<p>使用する可視化ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析検討シート 分析構造チャート SDストーリー様式 		
	<p>SD 分析チャート</p> <p>持続可能性物語（SD ストーリー）</p>		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	活動支援プログラム・ケーススタディ現場 3 地域（北陸、東海、長野）	ケーススタディ実施記録	SDGs 活動評価システム（プロトタイプ）
			参加者（数）、対象者（数）

個票No. 4-6

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催			
	表番号	業務内容		
	4-6	中間支援機能との連携強化のためのフォーラム（対話の場）の開催		
仕様内容	中間支援組織や活動主体を対象に、協働コーディネーターとの交流と意見交換の場とすることを目的としたフォーラムを開催する（北陸・東海・長野の各地域において各1回、20名程度、3時間程度想定）。			
計画概要	「協働の取組みによる環境保全活動の推進とはどうあるべきか」をテーマに、EPOや協働コーディネーターの中間支援組織や活動主体との連携のありかた、その時の協働コーディネーターの役割について意見交換を行うとともに議論を深める。活動評価システム構築のケーススタディを事例とした議論を通じて、地域における環境保全活動における課題を抽出し、当面の段階での重要性、優先度、コントロール可能性で分類するなど、効果的な取組みのありかたを検討する。			
関係者	○参加者 EPO 中部、中間支援組織、環境活動主体（市民団体やNPO等）、協働コーディネーター、行政など			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	EPO 中部：協働取組みフォーラム「協働の取組みによる環境保全活動の推進とはどうあるべきか」（北陸フォーラム、信州フォーラム、東海フォーラム）各1回 開催時期8月、10月、1月 【プログラム案】全180分 セッション1：グループ交流会（参加者を1グループ5人程度に構成） ・参加者の自己紹介 ・協働コーディネーターによる協働取組み事例紹介などのグループ交流 セッション2：活動評価システム構築におけるケーススタディの紹介 ・活動評価システム構築計画と現状の説明（開催時点の報告） ・それぞれの地域におけるケーススタディの取組みについての紹介 ・取組みの課題について抽出、全体ディスカッション セッション3：グループディスカッション～課題解決に向けて協働の取組みでできること ・抽出された課題について、協働で解決していく具体的方法の在り方についてグループ討議 ・発表用のポスターをその場で作成 セッション4：発表と全体ディスカッション（グループ持ち時間各10分） ・各グループの発表とその内容についての質疑 ・全体のまとめ			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	フォーラム（北陸・東海・長野の各地域において各1回）	フォーラム開催記録		中間支援組織、活動主体、協働コーディネーター、各回20名程度

個票No.4-7

平成30年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

■EPO 中部 □ESD 活動支援センター

分類	4 協働取組の促進のための業務			
プロジェクト	協働取組促進のためのワークショップの実施			
	表番号	業務内容		
	4-7	協働取組促進のためのワークショップの実施		
仕様内容	地域において協働による取組を促すため、協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等を対象とするワークショップを1回以上（1回4時間、15名程度、中部地方環境事務所会議室を想定）実施する。ワークショップは、講師（大学教授級、東京1名想定）の参加と中部地方環境事務所が手配する冊子「環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめたい行政職員に向けて～（制作 環境省地域活性化に向けた協働取組の加速化事業成果とりまとめタスクフォース）」の活用を必須とし、実施後2週間以内に結果をとりまとめ、事務所担当官及びGEOCに報告する。			
計画概要	行政にとって「市民の環境活動の促進」環境施策の推進は重要である。そのために「協働の取組み」が不可欠とされている。そこで主として行政担当者に対し、これら協働の在り方を認識してもらう講義を実施するとともに、あらかじめ課題設定した仮想の環境施策について具体的な協働の方法を検討するワークショップを実施する。これらを通じて行政の環境施策について市民（企業、NPO等含む）が効果的に協働するためのアイデアを共有する。			
関係者	<p>○参加者 協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等</p> <p>○講師 佐藤 真久 東京都市大学教授（協働取組加速化事業 アドバイザリー委員長） もしくは 島岡 未来子 早稲田大学研究戦略センター准教授（協働取組加速化事業 アドバイザリー委員） （講師人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>EPO 中部・協働取組ワークショップ～協働取組で環境施策をバージョンアップ</p> <p>開催時期：1月 場所：中部地方環境事務所会議室 テキスト：「環境保全からの政策協働ガイド～協働をすすめたい行政職員に向けて～」</p> <p>【プログラム案】全240分</p> <p>●講義 セッション1：講義 環境政策における協働取組の在り方（60分） 講師による講義、協働取組とは何か、その在り方、についての認識を深める。</p> <p>●グループワークショップ（各WSセッションは行政が主導し、企業やNPOは批評する立場で進める） セッション2：グループワークショップ1＜効果的な協働には何が必要か＞（60分） 「市民の環境活動の促進」を目的とした環境施策における協働相手である企業やNPO/NGOの立場を通じての協働促進の方法、条件（モチベーションを含む）やインセンティブの抽出を目的とした議論を行い発表する。 セッション3：グループワークショップ2＜効果的な市民協働の段取りを考える＞（60分） 上を踏まえて、行政がどのような段取りで施策を具体化すれば「協働」が効果的に促進されるかをディスカッションし、仮想事業における協働取組フローチャートを作成する。 セッション4：グループワークショップ3＜出来上がった段取りを試してみる＞ 出来上がったフローチャートを別グループのメンバーに検討してもらい議論を深め、協働の在り方をまとめる。</p>			
備考				
アウトプット	直接アウトプット			目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム	参加者（数）、対象者（数）
	ワークショップ1回以上（1回4時間）	ワークショップ成果、実施記録		協働取組に関心のある行政、企業、NPO/NGO等 各回15名程度

個票No.5-1

平成30年度計画 ■ ツール 会議 取組 催事 事務

□ EPO 中部 ■ ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD センターの取組み成果と中部の ESD/SDGs 活動の PR ツール		
	表番号	業務内容	
	5-1	PR ツール(センターの取組成果及び中部の ESD/SDGs 活動の PR) 作成公開	
仕様内容	中部地方 ESD センターの取組成果及び中部の ESD/SDGs 活動の周知を目的とした PR ツールを作成・公開する。同ツールには「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト(仮称)を掲載する。		
計画概要	中部 ESD センターと地域 ESD 拠点等の関係主体が活用する、ESD 及び SDGs の活動事例と関連制度の仕組みやセンターの役割等を紹介する PR ツールを作成する。 PR ツールには、本業務項目(6)「同時解決事業」における地域支援事務局業務、同(7)「環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援業務」、同(8)「環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の業務も事例もしくはセンターの成果として掲載する。		
関係者			
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>○リーフレットは A3 版裏表の二つ折りを想定し、2 月頃を目途に〇〇部を作成する。</p> <p>○デザインは全国センターと共通のコンセプトとして内容は以下のものを盛り込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ESD 活動支援センターの役割と組織 ・ 登録されている中部の ESD 拠点とその紹介 ・ 平成 30 年度の ESD 活動支援センターの取組み 「同時解決事業」における地域支援事務局業務の進捗・成果 「環境教育・学習拠点における「ESD 推進」のための実践拠点支援業務」の進捗・成果 「環境基本計画に沿った環境教育支援業務」の進捗・成果 ・ 「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト(仮称)の活用促進 あなたもすでにやっている! ESD の取組みを SDGs で確認しよう! <p>PR ツールデザインコンセプトイメージ(参考:全国センターパンフレットデザインコンセプト)</p> 		
備考	次年度からの ESD 取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。		
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
		ESD センターの取組成果・中部の ESD/SDGs 活動 PR ツール(部)	参加者(数)、対象者(数)

個票No.5-2、5-3

平成30年度計画 ■ツール ■会議 取組 催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務																																																								
プロジェクト	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成とワーキンググループ開催																																																								
	表番号	業務内容																																																							
	5-2 5-3	ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）作成 上記チェックリスト作成のための専門家（3名程度）によるワーキンググループ開催																																																							
仕様内容	中部地方ESDセンターの取組成果及び中部のESD/SDGs活動の周知を目的としたPRツールには「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）を掲載し、ESD活動実践者等の活動の可視化を促進する。PRツール作成のため、専門家（3名想定）を含めたワーキンググループを開催する（3回程度、EPO中部オフィスを想定）。																																																								
計画概要	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）</p> <p>ESD活動実施団体が自らの活動を振り返り、チェックして、SDGsに対する立ち位置を確認できるアンケート形式の記入票を想定する。活動主体自らが記入することにより、ESD活動の意義を再確認することで効果的な活動の方向性を見出すとともに、自律性、関係性、有能感の刺激する動機づけにより、活動意欲の増進を促す。</p> <p>○ワーキンググループの開催</p> <p>ESDとSDGsの研究に携わる研究機関の専門家に依頼する。現場に即した具体的な議論を行っていただくこととし、実用性の高いツールとシステムの構築を目指す。</p>																																																								
関係者	ワーキンググループメンバー案（運営委員会メンバーの関係者等から選定） 例）中部大学国際ESDセンター 准教授：古澤礼太、講師：景浦順子、研究員：川村信也																																																								
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>○「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）イメージ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>ESD活動の概要</p> <p>活動者・団体名： ○○水辺の会 環境守(かんきょうまもる)</p> <p>活動内容 ○○側の水辺観察活動を通じて参加者に自然保護の大切さを考えてもらう活動を行っている。</p> <p>ESD活動分野とSDGsへの貢献</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>SDGs17の目標に対応する活動の現状と今後の方向性</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>17の目標</th> <th>活動の現状</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 貧困撲滅</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 飢餓・食料</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 健康・福祉</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 教育</td> <td>小学生に参加してもらっている</td> <td>高校生にリーダーになってもらいたい</td> </tr> <tr> <td>5. ジェンダー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 水利用</td> <td>水辺の保護の重要を感じてもらっている</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. エネルギー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 経済雇用</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. インフラ等</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10. 国内外公正</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11. 都市</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 消費・生産</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 気候変動</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 海洋・海洋資源</td> <td>水辺周りの自然の観察</td> <td>海につながっていると感じてほしい</td> </tr> <tr> <td>15. 陸域自然</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. 平和</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. パートナーシップ</td> <td>○○小学校と連携して観察会を実施</td> <td>今後○○高校と連携したい</td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>○ワーキンググループの開催イメージ</p> <p>第1回（7月頃）：作成目的、作成イメージの共有 第2回（9月頃）：プロトタイプ提示、内容吟味 第3回（12月頃）：原稿案・利用システムの確認、活用方法の検討</p>			17の目標	活動の現状	今後の方向性	1. 貧困撲滅			2. 飢餓・食料			3. 健康・福祉			4. 教育	小学生に参加してもらっている	高校生にリーダーになってもらいたい	5. ジェンダー			6. 水利用	水辺の保護の重要を感じてもらっている		7. エネルギー			8. 経済雇用			9. インフラ等			10. 国内外公正			11. 都市			12. 消費・生産			13. 気候変動			14. 海洋・海洋資源	水辺周りの自然の観察	海につながっていると感じてほしい	15. 陸域自然			16. 平和			17. パートナーシップ	○○小学校と連携して観察会を実施	今後○○高校と連携したい
17の目標	活動の現状	今後の方向性																																																							
1. 貧困撲滅																																																									
2. 飢餓・食料																																																									
3. 健康・福祉																																																									
4. 教育	小学生に参加してもらっている	高校生にリーダーになってもらいたい																																																							
5. ジェンダー																																																									
6. 水利用	水辺の保護の重要を感じてもらっている																																																								
7. エネルギー																																																									
8. 経済雇用																																																									
9. インフラ等																																																									
10. 国内外公正																																																									
11. 都市																																																									
12. 消費・生産																																																									
13. 気候変動																																																									
14. 海洋・海洋資源	水辺周りの自然の観察	海につながっていると感じてほしい																																																							
15. 陸域自然																																																									
16. 平和																																																									
17. パートナーシップ	○○小学校と連携して観察会を実施	今後○○高校と連携したい																																																							
備考	次年度からの本格運用に向け、ESD取組み団体、組織、個人などを対象とした活用を想定する。																																																								
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット																																																						
	催事、発信	コンテンツ	システム																																																						
	ワーキンググループ開催（3回程度、EPO中部オフィスを想定）	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）記入票 ワーキンググループ実施記録	「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）	参加者（数）、対象者（数）																																																					

個票No.5-4

平成 30 年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催		
	表番号	業務内容	
	5-4	ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催	
仕様内容	中部地域における ESD 推進ネットワークの基盤形成・人材育成に資するためのダイアログを開催する（北陸・東海・長野の各地域において各 1 回以上、各 20 名程度、半日程度想定）。ダイアログは多様なジャンルの ESD 活動実践者の学びの場・交流の場となるようテーマ設定し、各回ともゲスト（大学教授級、2 名程度想定）を招聘する。		
計画概要	5-2「ESD/SDGs ポイント」チェックリスト（仮称）の作成、及びそのための 5-3 専門家によるワーキンググループ開催、の実施内容を題材に、ワーキンググループ関係者による検討内容の報告、ポイントチェックリストの使い方に関するワークショップを通じて、ESD 推進の在り方検討するダイアログを実施する。		
関係者	<p>○参加者 協働コーディネーター、地域の ESD に関わる個人、団体、教育機関、行政など</p> <p>○ゲスト（北陸地域）案 金沢大学 松本 謙一 教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター） 金沢大学 加藤 隆弘 准教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター）</p> <p>○ゲスト（信州地域）案 信州大学 渡辺 隆一 教育学部特任教授（信州 ESD コンソーシアム） 信州大学 水谷 瑞樹 教育学部助教（信州 ESD コンソーシアム）</p> <p>○ゲスト（東海地域）案 愛知教育大学 大鹿 聖公 教授（アドバイザー・ボード会議へ推薦予定） 中部大学 古澤 礼太 准教授（中部大学中部高等学術研究所国際 ESD センター、中部 ESD 拠点事務局）</p> <p>（ゲスト人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>SDGs に向けた ESD 推進のためのダイアログ（in 北陸、in 信州、in 東海）各 1 回 開催時期 8 月、10 月、1 月</p> <p>【プログラム案】</p> <p>セッション 1：話題提供 2 題 地域における ESD 推進の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲスト 1 による話題提供 ・ゲスト 2 による話題提供 <p>セッション 2：「ESD/SDGs ポイント」チェックリストによる ESD 展開ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ESD/SDGs ポイント」チェックリストの作成のためのワーキンググループ検討内容の報告 ・「ESD/SDGs ポイント」チェックリストを活用した ESD 展開のためのグループワークショップ <p>セッション 3：ダイアログのまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークショップ結果の発表、全体討論 ・ゲストによる講評 		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	ダイアログ開催（北陸・東海・長野の各地域において各 1 回以上、半日程度想定）	ダイアログ開催記録	

個票No.5-5

平成 30 年度計画 ツール 会議 取組 ■催事 事務

□EPO 中部 ■ESD 活動支援センター

分類	5 中部地方 ESD 活動支援センター運営業務		
プロジェクト	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催		
	表番号	業務内容	
	5-5	ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催	
仕様内容	地域における多様なステークホルダーが一堂に集い、地域ネットワークの形成を構築する機会として、ESD 推進ネットワーク地域フォーラムを開催する（1 回、半日程度、50 名程度、名古屋市内想定）。開催に当たっては、多様なジャンルからゲスト（大学教授級、3 名程度想定）を招聘する。		
計画概要	5-4 ESD 推進のためのダイアログ（対話の場）の開催など、中部 ESD 活動支援センターの今年度の成果を報告するとともに、専門家による講評をいただき、ESD 推進に関わる多様な主体の参加のWS による議論を深め、将来に向けての ESD 推進についての展開のビジョンを共有する。		
関係者	<p>○参加者 協働コーディネーター、地域の ESD に関わる個人、団体、教育機関、行政など</p> <p>○ゲスト 名古屋市立大学 伊藤恭彦 教授・副学長（中部地方 ESD 活動支援センター企画運営会議座長） 金沢大学 松本 謙一 教授（北陸 ESD 推進コンソーシアム ESD 推進コーディネーター） 信州大学 渡辺 隆一 教育学部特任教授（信州 ESD コンソーシアム） 愛知教育大学 大鹿 聖公 教授（アドバイザー・ボード会議へ推薦予定） （ゲスト人選については案であり、本人の承諾を得たものではない）</p>		
活動内容 プログラム・ 構成・目次等	<p>SDGs に向けた ESD の推進ビジョンを語ろう！中部地方 ESD フォーラム 2019（仮称） 名古屋市内開催（3 月）</p> <p>【プログラム案】</p> <p>セッション 1：中部 ESD 活動支援センターが取り組んできたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部 ESD 活動支援センター担当スタッフによる平成 30 年度の成果報告 ・ゲスト 3 名による講評 <p>セッション 2：参加者の ESD への思いを表現しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けた ESD 推進のビジョンをグループでディスカッション ・グループごとにディスカッション内容を発表 <p>セッション 3：将来に向けた ESD 推進のビジョンを語ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲスト 3 名からなるパネルディスカッション ・フロアを加えた全体討論 		
備考			
アウトプット	直接アウトプット		目標アウトプット
	催事、発信	コンテンツ	システム
	ESD 推進ネットワーク地域フォーラム開催（1 回）	フォーラム開催記録	参加者（数）、対象者（数） 一般市民等 50 名程度の参加